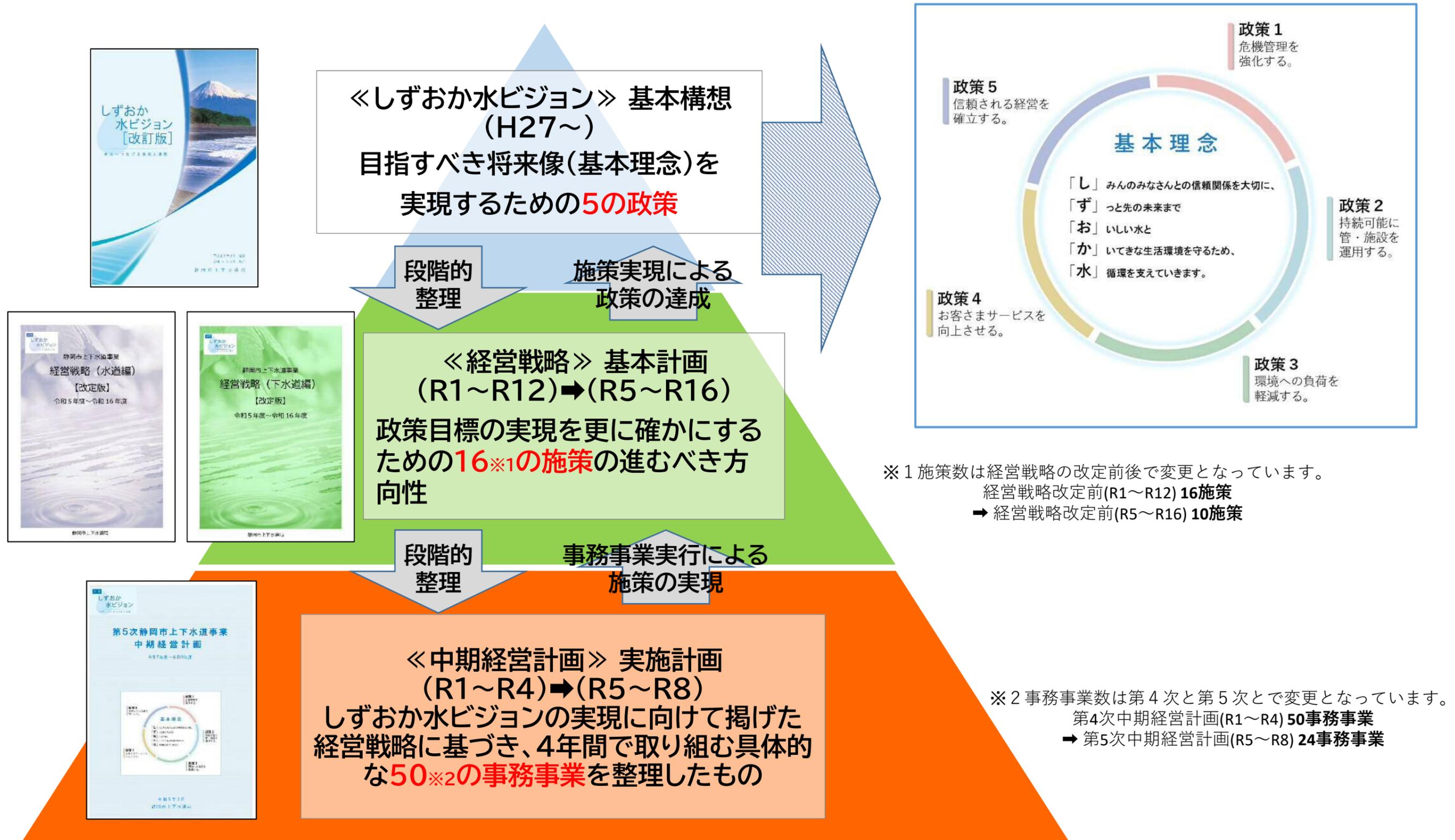


《上下水道局の基本理念や政策等体系図》

目指すべき将来像(基本理念)達成のため、取り組むべき事業を段階的に整理し、具体的に実行していく。



6-6 事務事業個票

政策1 危機管理を強化する。

施策(1) 重要な管・施設の地震対策

① 水道管の耐震化【水道】 挑戦 主要

実施目標 「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、基幹管路(重要な水道管)307.4 kmのうち、耐震化済の水道管延長が、平成30年度末は116.4 kmですが、これを令和4年度末までに9.0 km 実施し、新規布設分9.0 kmと併せて134.4 kmの耐震化を完了します。

(活動指標)

実施内容	H27~30年度 (実績)	R1~4年度 計	R1年度 (目標)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)	R4年度 (目標)
水道管(基幹管路)の耐震化	4.4 km	9.0 km	1.3 km	2.5 km	2.0 km	3.2 km

具体的な取組	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
基幹管路の耐震化調査・設計					
基幹管路の耐震化工事					

調査・設計・検証等 実施(施工・施行)

効果

巨大地震に備え、水源から浄水場までを結ぶ導水管、浄水場から配水池まで水を送る送水管及び配水池から各家庭まで水を送る配水管のうち、口径300mmを超える配水管といった重要な水道管の「継手の離脱防止」、「水道管の破断防止」など耐震性の向上が図られます。

効果を測定する指標

● 基幹管路の耐震管率

$$\frac{(116.4 \text{ km} + (\text{新設分}) + (\text{耐震化延長}))}{(307.4 \text{ km} + (\text{新設分}) + (\text{耐震化延長} - \text{除却延長}))} \times 100 (\%)$$

※耐震管延長及び基幹管路延長は、新設管路延長を含む。

地震災害に対して被害を最小限にするとともに、迅速な対応により早期の機能回復が可能となるよう、基幹管路(重要な水道管)を耐震化していくことから、災害に対する水道システムの安全性、危機対応性の向上を示す「基幹管路の耐震管率」を成果指標として設定しました。

(成果指標)

指標名	H30年度 (実績)	R1年度 (目標)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)	R4年度 (目標)
基幹管路の耐震管率	37.9%	39.5%	40.5%	41.2%	42.2%

政策1 危機管理を強化する。

外部評価対象事務事業

● 戦略的に重要なもの

施策(1) 重要な管・施設の地震対策

① 水道管の耐震化【水道】 挑戦 主要

実施目標

「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、基幹管路(重要な水道管)307.4kmのうち、耐震化済の水道管延長が、平成30年度末は116.4kmですが、これを令和4年度末までに9.0km実施し、新規布設分9.0kmと併せて134.4kmの耐震化を完了します。

(活動指標)

実施内容	H27~30年度 計	R1~R4年度 計	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
水道管(基幹管路)の耐震化	計画値	9.7km	9.0km	1.3km	2.5km	2.0km	3.2km
	実績値	4.4km	—	1.3km	1.8km	3.0km	
	事業費	予算(千円) (前年度繰越+現計予算)		675,732	853,270	1,106,864	
		決算(千円) ※見込み		292,364	380,787	635,967	
	繰越(千円) ※見込み		212,570	394,223	424,114		

効果

● 基幹管路の耐震管率

(基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長)×100 (%)

※耐震管延長及び基幹管路延長は、新設管路延長を含む。

(成果指標)

指標名	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
基幹管路の耐震管率	計画値	37.9%	39.5%	40.5%	41.2%	42.2%
	実績値	37.9%	39.3%	40.1%	40.8%	

R3成果指標算出式

$$\frac{(116.4 \text{ km} + (\text{R1~3新設分} 7.8 \text{ km}) + (\text{R1~3耐震化延長} 6.1 \text{ km}))}{(307.4 \text{ km} + (\text{R1~3新設分} 7.8 \text{ km}) + (\text{R1~3耐震化延長} 6.1 \text{ km} - \text{R1~3除却延長} 1.7 \text{ km}))} \times 100 (\%)$$

自己評価

説明

a

活動指標は、R3計画「2.0km」に対し、R2工事繰越完成分「0.7km」を加えた「3.0km」の実施となり、活動指標は達成した。
 具体的な取組として日本平送水管布設替工事や福田ヶ谷送水管布設替工事など8件の工事を実施した。
 また、成果指標の「基幹管路の耐震管率」はR3計画の「41.2%」に対し、「40.8%」の実績で達成率は99.0%となったため、「a」評価とした。
 水道管の耐震化を進めることにより、重要な水道管の「継手の離脱防止」、「水道管の破断防止」など耐震性の向上につながる。